

開一研究通信

令和8年1月30日

開進第一小学校

校長 海老沼 寛之

No.6

研究推進部

研究主題

個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり

第4回研究授業

国語「子ども未来科」で何をする

5年3組

授業

手だて「指導の個別化」

★練習方法の選択

自分の課題に合った練習形態を選ぶ

★構成×モの作成方法の選択

構成を考える際に、短冊、ICT、ワークシートなどから選ぶ



手だて「学習の個性化」

★話題設定について

社会問題への関心が高まるような場を設定

★チェックシートによる課題設定と取組の評価

児童とともにチェックシートを作成し、よい提案文を作成するための、自己の課題を選択



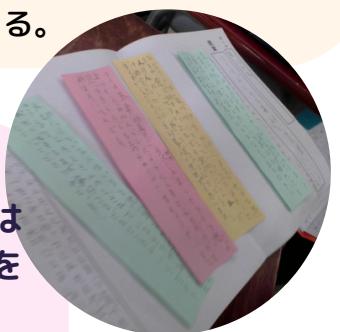
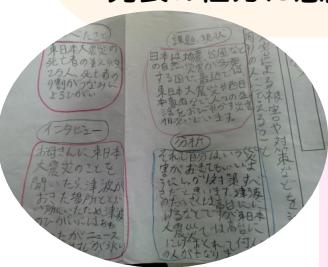
協議会

成果

- 個人、ペア練習など自分で選択しており、自分にあったやりやすい方法を主体的に選択できていた。
- チェックシートな内容をもとに、交流し発表の仕方に意識を向けた練習ができていた。

課題

- 児童が選択した学習方法が自身にとって本当に適切だったかを振り返る機会として、「学び方の振り返り」という視点も必要。
- 教師がどのような指導や支援をするのかを考え実施していく必要がある。



今後の取組

- 児童が個別最適な学習をさせているときに、教師は一人一人の学習状況を観察・分析し、個別の支援を行ったり児童の学習の自己調整を促したりする。
- 学習内容を焦点化し、付けたい力が明確な単元計画を立てる。

授業では、児童がそれぞれ自分で選んだ話題に説得力をもたせるため、表現方法を工夫しながら取り組む姿が見られました。また、友達からのアドバイスを試しながら練習を重ね、互いに高め合う様子も見られました。今後も、自分で選択し、学びを調整しながら表現力を高めていけるような学習の場を設定していきます。